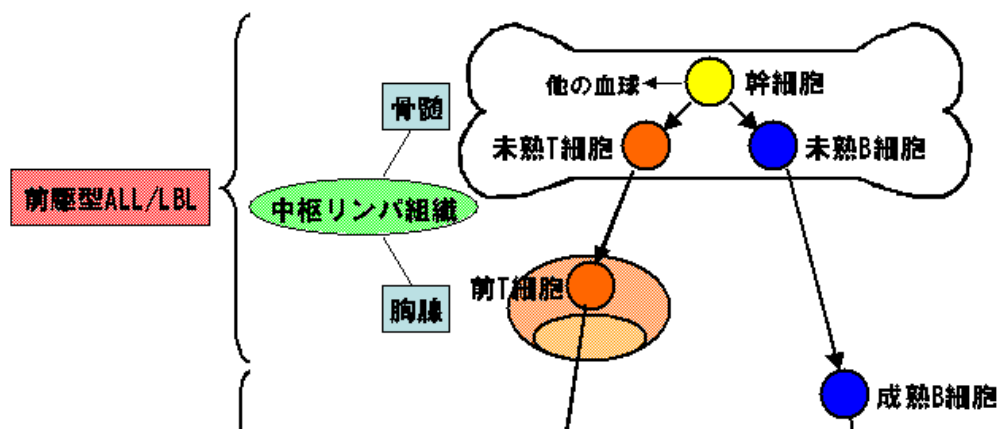


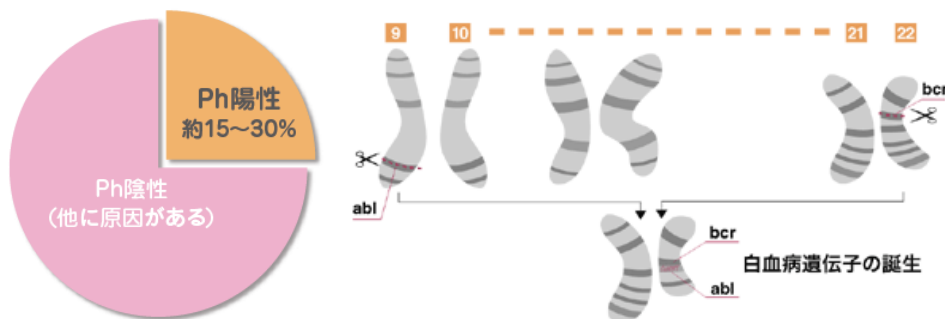
⑪急性リンパ性白血病（ALL）とはどんな病気？

白血球には、前述の顆粒球とは別に、特殊なリンパ球という細胞があります。顆粒球が例えるならば交番のお巡りさんでしたが、リンパ球は自衛隊です。つまり攻撃する相手を選び、重要なときに出動するというものです。将来お巡りさんになるような細胞（骨髄性前駆細胞）が白血病化すると急性骨髄性白血病と言いますが、将来自衛隊になるような細胞（リンパ性前駆細胞）が白血病化すると急性リンパ性白血病（ALL）と呼びます。リンパ性前駆細胞は骨髄にいますので、ALLは通常骨髄を中心に発症しますが、一部の症例では、胸腺やリンパ節主体に増殖する場合もあり、リンパ芽球性リンパ腫と呼ばれます。一般的に急性リンパ性白血病とリンパ芽球性リンパ腫は同じように扱われます。



急性リンパ性白血病は、骨髄もしくは胸腺やリンパ節内に存在する未熟リンパ球が癌化することによって起こる。

増殖リンパ球にはBリンパ球と、Tリンパ球という細胞に分類できますが、ALLもB細胞性ALLとT細胞性ALLに分類できます。小児の白血病はALLが多いです。成人の場合、慢性骨髄性白血病でみられるフィラデルフィア染色体という特徴的な染色体異常をもつALL（15-30%）が多く、通常治療成績は悪く、予後不良です。





チロシンキナーゼ阻害薬を使うことで、有効率は上昇した。

治療は、AMLと同じく、完全寛解をめざし、その後地固め療法を行います。診断時に高齢、白血球数が多い、フィラデルフィア染色体陽性など特徴的な染色体異常を有するなど、予後不良因子を満たす場合（成人では多くの方が当てはまります）には、寛解導入後に再発を待たずして同種造血幹細胞移植を行うことで治癒を得るよう努めます。高齢者の場合は化学療法のみで治療にあたりますが、特にフィラデルフィア染色体陽性例では、チロシンキナーゼ阻害薬と呼ばれる特殊なお薬を使用し、生存期間の延長を期待いたします。